

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	側頭葉てんかんに伴う発達障害スペクトラムとてんかん発作予後の評価
研究責任者	代表;藤本礼尚 分担研究者;てんかん科 榎 日出夫 聖隷クリスティー大学 柴本勇
研究実施体制	統計解析およびデータ収集(藤本、榎);神経心理評価(柴本)
研究期間	IRB 承認日~2021年12月
対象者	2009年8月から2019年1月までに当院で治療を受け発作が消失した側頭葉てんかん症例が対象
研究の意義・目的	発達障害は現在ではスペクトラム(連続性)があるとされ、画一的なカテゴリー分類による診断ではないとされる。てんかんと発達障害の合併率は高く30-50%と言われている。またてんかんの原因は多元性であり単一の原因によらないと言われており、当科より多元性説を裏付ける論文を2編執筆している。多元説が正しければ自閉症スペクトラム事態もリスクでありより強い自閉傾向であればより難治である、と仮説を立て、立証すべく後方視的に神経心理検査と難治度の相関を検討する事を目的とした。この仮説が立証されれば予後予測がより判断しやすくなるを考える。
研究の方法	側頭葉てんかんで薬剤抵抗性群(難治群)と薬剤コントロール良好群(易コントロール群)のコホートに分け各群のASQを後方視的に比較する。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 てんかんセンター (氏名) 藤本礼尚 TEL:053-474-2222(代表) てんかんセンター外来 9:00~17:00 平日